

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2034号 2010年09月13日(月)

## 《 Who will be the next prime minister of Japan 》

今週は久しく日本の政治の最大の話題だった民主党の代表選挙の結果が火曜日に出て、「ほぼ」確実にその勝者が日本の首相の座に着く。「ほぼ」と若干の留保条件を残さざるを得なかったのは、先行き予測が出来ない民主党の権力争いの中で、党が代表戦後も一体でいられるかどうかについて若干の疑念があるし、政界再編のうねりが生ずる可能性もあるからだ。少なくとも代表戦における民主党の国会議員票は「党を二分する」ものになるはずで、これは今後の党運営に大きな禍根を残す。

両派の議員が選挙運動中にメディアに盛んに出て議論をしたのはメディアジャック的には良かったし、自民党を陰の薄い存在にする効果はあったかもしれないが、明らかに党内に今後しこりが残る原因となるだろう。かつ、新代表が首相になって順調な政権運営が出来るかどうかは極めて怪しい。なぜなら、民主党は衆議院では307の圧倒的な議席をもっているが、参議院では与党とその立場を支持する議員の数は110で、自民党など野党と呼べる議員の数は132に達している。加えて、民主党は参議院で否決した法案を衆議院の三分の二で再議決する憲法上の力も持っていない。

菅首相が続投となったら国民の大多数の選択（世論から見た）と同じ方向ということで当初は波風が立たないかもしれないが、そもそも組閣には苦勞するだろうし、野党対策には全く展望が見えない。小沢首相ということになれば、何よりも「国民的不人気」との戦いが当初から予想される。衆議院の任期は残り3年だが、不人気の首相が野党を巻き込んだ政界再編がそれほど容易に出来るとは考えられない。

ということは、「デフレ脱却」「円高抑制」「日本企業の競争力アップ」など多くの課題で新政権は当初からパワフルな政策を打てない可能性が高い、ということだ。大きな政策を打ち出す財政的な、そして政治的な環境整備がまだ出来ていない。円にしる株価にしる、秋晴れの動きがまだ出来ていないのは、そうした日本の政治状況が明らかなのと思われる。

---

先週はそうした中でも「円高」と、その「円高を嫌気した株安」の連鎖に若干の変化が見られた。円高でも株安が誘発されない状況が特に週後半に見られたし、週末は84円台の円安に若干なったが故に、株高が一段と進んで、「案外株式市場は底堅くなってきている」との印象を受けた。もちろん出来高を見れば、「盛り上がっている」とはとても言えない水準であって、円高一服と言っても83円台の先週の高値からせいぜい1円程度円安になった

だけ。よって、大きな市場のトレンドが変わったとはとても言い切れない。

今週は「世界的に一時高まった景気先行き懸念」の弱まりが経済指標でどの程度確認されるのか、それとも依然として懸念すべき状況なのかについて、ある程度の結論が出る可能性がある。中国を含めてアメリカなどから一連の指標などが発表されるからだが、大きな意味では世界の市場は引き続き「楽観論」と「悲観論」の波の入れ替わりを体験しているだけとも言える状況。「円高阻止の介入」など言葉だけが飛び交う状況が続くかどうかも注目だ。

今朝の為替相場を見ると、円安が特に豪ドルやニュージーランド・ドルなど他通貨に対して円安になっている。豪ドルは78円台。

---

今週の主な予定は以下の通り。

9月13日(月)	ユーロ圏7月鉱工業生産 IAEA理事会(17日まで) 世界経済フォーラム夏季会合(中国・天津)
9月14日(火)	民主党代表選挙 8月首都圏マンション販売 米8月小売売上高 米7月企業在庫 インドネシア休場
9月15日(水)	米9月NY連銀製造業景気指数 米8月鉱工業生産・設備稼働率
9月16日(木)	7月第3次産業活動指数 米8月生産者物価 米9月フィラデルフィア連銀指数 8月北米半導体製造装置BBレシオ 7月ユーロ圏貿易収支 インド金融政策決定会合
9月17日(金)	8月日本製半導体製造装置BBレシオ 米8月消費者物価 米9月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報)

なお、今朝5時過ぎのニュースとしては、「銀行の新資本規制、13年から段階適用 バーゼル委合意」(日経ネット)がある。既に直近ではドイツ銀行の増資の動きなどが出ているが、日本などでは増資が一段落した段階。ニュースは本体の記事として、「日米欧などの金融監督当局で構成するバーゼル銀行監督委員会は12日、銀行の新しい自己資本比率規制策で合意した。普通株などで構成される「狭義の自己資本比率」の最低基準を現行の2%か

ら 4.5%に引き上げることなどが柱で、2013 年から段階的に適用を始める。金融市場の混乱や景気失速でも銀行経営の健全性を保つ狙いがあるが、一部の銀行は自己資本の拡充を求められる可能性がある。「バーゼル委によると普通株などで構成される自己資本の最低基準は「現行の2%から15年1月までに4.5%に引き上げる」としている。ただ一気に基準を厳しくするのではなく、13年に3.5%、14年に4.0%と段階的に引き上げていく。」となっている。

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。相変わらず暑い。しかし一日の最高温度は一時よりかなり低くなって、「秋は遅ればせながら近づいている」という印象でした。私は8月の末から9月の初めにかけてチベットに行っていて、その間を中心都市ラサとその周辺で過ごしましたが、最高温度は22～23度ですこぶる過ごしやすい日々でした。

ラサは言ってみれば「エアコンシティ」です。インドのバンガロールと同じように。標高が高いが日本より遙かに赤道に近いところにある。標高3600メートルなので、要するに紫外線が強い。人々のチベット焼けの原因ですが、この紫外線の強さが冬でも雪を溶かしてしまう。ほとんど雪は積もらないそうです。ラサでは。高地にあるので気温は低めだが、太陽光を当たるところは暖かい。

日本の民主党代表選は、チベットでも話題でした。土産物店で他のメンバーが買い物をしている間、私は土産物店の店長と店員を交えて話をしていたのです。「リーマン以降は景気が悪い」などと。そしたら店長が突然チベットの新聞を持ってきて、それを見たら真ん中の大きなスペースを割いて菅・小沢のご両人の写真が載っていて、頭を下げている。その店長が聞くのです。「どっちが勝つんだ。君はどちらに投票するんだ」と。これには参った。だって我々には投票権はないのだから。「それにしても、3ヶ月で首相が替わる可能性があるのか」と彼らは驚いたような表情をしていた。「めまい」がしているのは、ニューヨーク・タイムズだけではない。

ついでだからもう一つ。木曜日に一緒に食事をした人が、民主党の代表選の投票用紙が来たので、「該当者なし。いい加減にしてください」と返信したというのです。彼女はむろん民主党員ではない。知り合いの民主党議員の知り合いの秘書から、「一人100人の義務があるから、名前を貸して」と言われただけだというのです。むろん2000円は支払っていない。「私のように返信した人は多いのでは」と彼女。ある意味ではいい加減な選挙です。そんな投票で次の日本のトップが決まるとは残念。スタートして10年が立つ政党なんだから、ちょっとしっかりしてもらわねば。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所首席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情

報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》